

株主通信

2016年7月1日～2017年6月30日

www.medius.co.jp

MEDIUS VISION

 **MEDIUS**
HOLDINGS
メディアスホールディングス株式会社

人に未来を。医療に明日を。



メディアスホールディングス株式会社
代表取締役社長

池谷 保彦

女優・タレント

向井 亜紀

特集

東京証券取引所市場第一部指定記念対談
「変革する医療の、今日と明日」

変革する医療業界のリーディングカンパニーとして、
時代のニーズに合ったより良き医療環境の実現に貢献してまいります。

本年3月21日、当社は東京証券取引所より市場第一部に指定されました。平素ご支援いただいております株主様をはじめ、全ての関係者の皆様に改めて深く感謝申し上げます。

近年の医療関連業界の重大な関心事の一つに、2025年問題ともいわれる国の医療構造改革が挙げられます。機能別医療を推進する大規模な病床再編の前に、多くの医療機関様が経営効率化や医療の質的向上を追求しておられます。そのため当社グループでは、物流の効率化、AIやIoTを活用したソリューションの充実、在宅介護支援など、今までにない先進的な施策を実現することで、より良き医療・介護環境の実現に貢献することを目指しております。この目標を成し遂げるためには、大規模投資の可能な事業基盤が不可欠です。そのため当社グループは、業界再編を期したM&Aを積極的に実施し、東海から関東・東北まで着々と活動地域を拡大しております。

一方、自然災害が多い日本では、現在BCP(企業の事業継続計画)の対応についても重要視されています。このことから当社では災害時も医療機関様へ安定して医療材料を供給できるよう首都圏物流倉庫を免震構造化するなど、防災対策強化にも注力しております。

こうした様々な時代の変化に対応することで、医療機関に信頼されるパートナー企業になれるよう努めてまいります。

今回の東証一部指定もそのための新たな成長機会とし、さらなる飛躍を図ってまいります。

メディアスホールディングス株式会社
代表取締役社長

池谷 保彦



MEDIUS
G R O U P

グループ会社 新社長メッセージ



協和医科器械株式会社
代表取締役社長

柴田 英治

本年、協和医科器械は設立より60年の節目を迎えました。地域に着実に根を張り、今日に至るまで成長を続けて来られたのは「何人にも笑顔をもって協力を」という社是＝協和マインドを「For Your Smile」という言葉で社員一人ひとりがしっかりと受け継ぎ実践してきたからに他なりません。

当社の強みは徹底した現場主義とそれに基づく営業力です。これまでに先達が歩み築いてきた信用と信頼を礎として、私たちは医療現場の負担軽減と合理化に貢献するお客様にとっての“ファーストコールカンパニー”でありたいと考えます。

医療環境の改革が喫緊の課題となっている今だからこそ、『地域医療を支える』という我々の使命は、医療従事者の皆さまと患者さまの笑顔を増やすことによって果たされるものと信じ、当社は喜びと誇りを持って今後も地域医療の向上に貢献してまいります。

株式会社ジオット
代表取締役社長

安宅 恵美子

ジオットは、福島県という素晴らしい地で人と人との結びつきに支えられ、成長を続けてまいりました。創業者の「人間尊重の企業を目指す」という志に思いを重ね、懸命に力を尽くしていただいた諸先輩方に改めて感謝の思いを深くしております。

医療を取り巻く環境が大変な変革期にある現在、社会全体の高齢化や働き手不足の問題が山積しており、福島県も例外ではありません。しかし常にお客様のことを考え動く「人財」ともいえる社員と、その社員を頼りにしてくださるお客様、仕入先様の存在に、新たな時代へと挑む勇気を与えていただいています。

メディアスグループの強みである情報提供力・課題解決力を現場営業に取込み、積極的かつ迅速にお客様をサポートでき、すべてにおいて積極的にスピーディに動ける、医療現場のことを第一に考えた組織づくりをすすめてまいります。

株式会社栗原医療器械店
代表取締役社長

栗原 勝

栗原医療器械店は、創業65周年を迎えました。これまで当社を育んできた先人達の功績を鑑み、第4代社長を拝命する重さを感じつつ新たな時代を築いていく高揚感にあふれております。

私の仕事とは何か。業績拡大への舵取りはもちろん重要です。しかしながら、医療機器販売会社のトップとしてのあるべき姿は、業績の拡大以上に、全従業員とともに健全に企業運営をし、地域医療に欠かせない企業として地域とともに歩んでいくことです。

そのために、社は「誠実・迅速・確実」という行動原則のもと、業績のみならず「従業員満足度」においても業界No.1の企業を目指し『地域医療に貢献する栗原医療』というバトンを次世代に渡すこと、このことを第一義として社会の要請に応えるべく、変えるべきところは大胆に刷新し、目の前に拡がる新たなステージへのさらなる飛躍を図ってまいります。

Yasuhiko Ikeya

メディアスホールディングス株式会社
代表取締役社長

池谷 保彦

1978年協和医科器械株式会社入社、2001年同社代表取締役社長に就任。2009年よりメディアスホールディングス株式会社代表取締役社長。(社)日本医療機器学会理事、東京都医療機器販売業協会理事を務めるなど、医療機器業界の牽引役としても活動。

Aki Mukai

女優・タレント

向井 亜紀

1964年埼玉県生まれ。夫・高田延彦(元格闘家)との間にできた小さな命を子宮頸がんによる子宮全摘出で失い、米国での代理出産で双子を授かる。現在は旅番組のMCなど多彩な活動を行う一方、高田とともに『高田道場ダイヤモンドキッズカレッジ』で子どもたちに体を動かす楽しさを伝えている。

衣裳：YUKI TORII

SPECIAL TALK

東証一部指定は「旅の途中」

向井> 東証一部指定おめでとうございます。本当に勢いのある会社でいらっしゃるんですね。

池谷> ありがとうございます。当社は医療という公益性の高い分野に携わっているので、大きく利益を出すことより、少しずつ長く成長し続けることが大切だと思っています。その意味でもより公益性の確保を要求される東証一部を目指してきました。

向井> 社長は、会社をここまで大きくして来られたんですね。これまでに様々なご経験をされてきたのでは。

池谷> 今まで本当に人に恵まれてきました。よく非常勤の取締役から「これほど取締役会が盛り上がる会社はない」と言われます(笑)。当社の取締役は、皆思いを全部ぶつけ合う。意見を聞くことでお互いから学ぶこともたくさんあり、その上で最善の結論を出していきます。それだけ当社は多様な意見を取り入れガバナンスの効いた企業になっているのです。

向井> とことん意見を戦わせて考え抜いて、それが成功した時の感激はひとしおでしょうね。特に東証一部に上がったのは、一つの大きな区切りになったのでは。

池谷> 確かに一つの目標ではありました。けれども、東証一部は、まだまだ「旅の途中」です。その先には業界再編に向かってM&Aを進めていくという大きな目標があります。日本はこの先、人口減少によって医療のマーケットが縮小していきます。それに対して我々医療機器販売の業界は競合が多いため、経営を統合して大きくしていかないと生き残ることはできません。



特集

東京証券取引所市場第一部指定記念対談 「変革する医療の、今日と明日」

AI活用が医療現場を変える

向井> 日本は世界一の長寿国ですから、『医療』はどんどん重要度が増していく成長分野なのかと思っていました。

池谷> そうですね。ただ、課題も多くあります。日本のドクターは長時間労働が当たり前のようになっていますよね。今の日本の医療制度は、患者さんを救おうと力を尽くすドクターの高いモラルで成り立っているところがあります。

向井> 本当ですね。実は私の父は耳鼻科の開業医だったのですが、夜中でも患者さんが来れば「どうにか助けなければ」となるので、どんどん負担が増えていました。「医は仁術」とは言うものの、大変ですね。

池谷> その問題を解決する一つの救いとなるのが、AIの進歩です。例えば初診の患者さんが自分の病気を特定したいという時、AIを活用すればある程度選別できる。それがドクターの負担を減らすことに繋がります。

向井> なるほど、最新の医療機器は患者さんのためだけでなくお医者さまのためにもなるわけですね。お医者さまもっと楽になって、お仕事も人生も充実させないと。

患者さんを自分の家族だと思う

池谷> 医療現場の負担軽減ももちろん大切ですが、一番大事なのはやはり患者さんのためになることですね。よく社員には、「我々は医療行為に直接携わっていないけれど、その患者さんが自分の家族だと思って、とにかくできるところまでやろう」と言っています。医療に関わる貢献度の高い仕事なので、プライドをもって仕事に取り組んで欲しいなと思います。

向井> 私は婦人科系に腎臓に大腸など、18回の手術を経験していて、いろいろな後遺症とつきあわなくてはならなくて今も複数の病院に通っています。私の経験上からも、病院は本当に大変だと思います。腎臓の手術をした時救急車で運ばれ、腎臓を取って人工血管をつけてという手術をしたのですが、その時たまたま私に合うカテーテルが在庫切れで、急遽少し細いものを使うことになったんです。これしか選択肢がないという状態になると、患者にはあの治療で良かったのかという不安感が時限爆弾のように残ってしまいます。ほんの一本でも患者にとってはとても重要な一本。それだけに病院は大変な労力で治療手段のバリエーションを確保しなければならないわけですね。

医療現場の「効率化」に貢献する

池谷> 今、日本の病院経営はとても厳しい局面にあります。2025年問題とよく言われますが、このままいけば膨大な医療費負担によって医療保険制度そのものが破綻してしまいます。そうさせないためにも医療環境をローコストで提供するというのが我々の最大の使命です。近年、政府は、病院の特性別に機能を分け、それぞれの機能を有効活用することで効率化を図ろうとしています。一般的な患者さんの傾向として、病状に関係なく、どうしても高い医療技術を持っていると思われる大きな病院に行きたくりますよね。一方で、増え続ける患者さんを限られた数の大病院で診察することは難しい。そこで、患者さんはまずかかりつけ医で診てもらい、そこから症状によって専門的な病院に来てもらうよう試みているわけです。そうすることで、医療費の増大が少しは抑制されるのです。

向井> 難しい問題ですね。でも、日本の医療は海外と比べても、とても恵まれています。世界中が日本の医療をお手本としていますよね。

池谷> そうですね。国民皆保険制度はなんとしても維持しなければなりません。そのためにはやはり効率化が不可欠です。そこに我々も貢献したいと考えているのです。

向井> お医者さんは日々目の前の患者さんに集中していますから、より広い視野で今後の病院の形を提案していくという視点は、医療機器を扱う皆さんに期待されていることかもしれませんね。

池谷> その意味で、「この患者さんの治療に必要な機器はどこにあるか」など、『患者さん』と『治療』と『医療機器』をうまくマッチングできる仕組みがつかれるといいですね。AIを活かせばできそうな気がします。

向井> 夢がありますね！

池谷> それが実現する頃には私はこの世にはいないかもしれませんが(笑)

向井> いえいえ、120歳まで生きられる時代がもうすぐ来ますから。これから大事なのは120歳までその人らしく生きられるかどうかです。

池谷> 最近「健康寿命」が目指されるようになりましたね。我々の事業会社には「寝たきりゼロ」を目指す介護福祉機器の販売会社もあります。ヨーロッパのように、要介護者の残存機能を損なうことなく、できる限り快適に日常生活がおくれる環境を提供したいと思っています。

向井> 素晴らしいですね。株主の皆さんも、利益も大事ですが、この事業を未来へ向けて応援したいという気持ちの方も多いのではないのでしょうか。

池谷> そうですね。地域医療を支える企業として、より多くの方に我々を知っていただき、当社の株を持つことを自慢にいただけるような会社になりたいと思っています。



MEDIUS STORY

「メディアスグループ成長の歩み」

地域医療の大変革を迎え、より強靱に病院経営を支えていくため、メディアスグループはM&Aによる事業規模拡大を推進してきました。今後も積極的に拡大戦略を進め、一層社会に貢献できる企業グループへと成長を続けます。

2010

STAGE 2 (株)ケー・エス・ビー・ディグループへ参画

SPD事業強化のため、(株)ケー・エス・ビー・ディ(現:メディアソリューション(株))の株式100%を取得

STAGE 3 (株)栗原医療器械店、(株)メディカルバイオサイエンスグループへ参画

北関東及び首都圏の販売力強化のため、(株)栗原医療器械店の株式100%を取得、同社の子会社(株)メディカルバイオサイエンスと共にグループ企業化



STAGE 4 メディアスホールディングス(株)に商号を変更

STAGE 5 (株)ネットワークグループへ参画

首都圏地域の販売力強化のため、(株)ネットワークの株式100%を取得



2013

STAGE 6 (株)秋田医科器械店グループへ参画

秋田県内の販売力強化のため、(株)秋田医科器械店の株式100%を取得

STAGE 7 インド共和国国内に「CARNA MEDICAL DATABASE PVT. LTD.」設立

インド共和国での事業展開のため、インド共和国国内に鴻池運輸(株)との合弁会社 CARNA MEDICAL DATABASE PVT.LTD. を設立



2016



STAGE 10 東京証券取引所市場第二部に市場変更

STAGE 9 (株)ケアフォース設立

医療用及び介護向け機器の輸入・販売を目的に、(株)ケアフォースを設立



STAGE 8 (株)ジオットグループへ参画

福島県内の販売力強化のため、(株)ジオットの株式100%を取得



2014

2017 東京証券取引所市場第一部に指定



(株)ミタス、ディーセンズ(株)グループへ参画に向け基本合意書締結

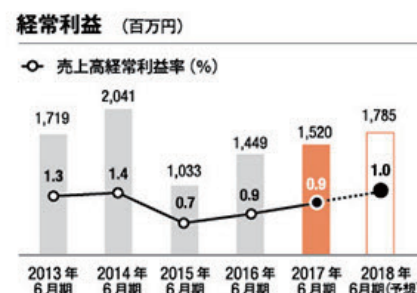
NEXT STAGE >>



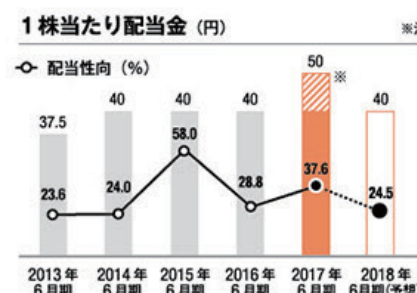
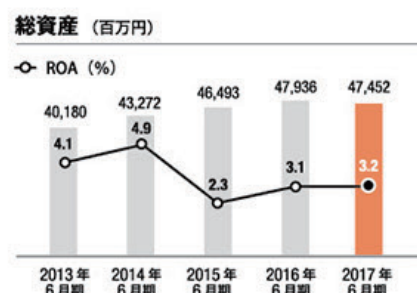
北陸地域での販売力強化を目指し、(株)ミタス(福井県福井市)及びディーセンズ(株)(石川県金沢市)のグループ参画に向け契約締結

財務情報

「損益の状況」



「財政の状況」



2017年6月期の1株当たり配当金は50.0円となりました。

親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり配当金 (中間配当(記念配当)10円含む)	配当性向
863 百万円	50.0 円	37.6 %

※注) 当社は2016年9月30日の株主に対し、2016年10月1日付をもって、普通株式1株につき2株の割合で株式分割をしております。
なお、1株当たり配当金は当該株式分割による影響を考慮しております。

メディアスホールディングス 未来への取り組み

女性社員を中心にワークライフシナジーを追求

なでしこワーキンググループ



栗原医療器械店では、働き方改革の一環として、女性営業社員による「なでしこワーキンググループ(WG)」を組織。仕事と個人の生活をともに充実させる「ワークライフシナジー」を目指しています。WGでは、出産などでライフスタイルが大きく変化する女性ならではの悩みや課題を話し合い、永く安心して働ける環境づくりに取り組んでいます。また、女性活躍促進に先進的に取り組む他社との交流も図り、社内に新しい風を吹き込む活動に力を注いでいます。

CSR/地域貢献活動

サッカーを通じた社会貢献活動 ～子供たちの笑顔の為に～

エスパルス福祉基金



協和医科器械とオズでは、サッカーJ1リーグ・清水エスパルスとの共同企画「エスパルス福祉基金」を実施し、ホームゲーム毎のゴール数や入場者数に応じて基金を積み立て、シーズン終了後に地域の養護施設や医療機関等に寄付金をお贈りしています。またこの一環として、しずおか精神障害者スポーツ推進協議会中部地区主催のエスパルスハートフルカップへの協力や、知的障害のある子供達がサッカーを通じて余暇や生涯学習の意欲を育てる事を目的とした「協和医科カップ」の開催への協賛もしております。

お客様の本音に耳を傾ける活動

VOC (Voice Of Customers)



メディアスホールディングス(HD)は、各事業会社の営業部門とは独立した形で社長室直轄の「VOC」を設置しています。お客様第一主義を標榜し、専任スタッフがお客様を訪問。現場においてお客様の「生」の声に耳を傾ける傾聴活動を全社横断的に展開しています。VOCでは、ヒアリング結果をHDおよび各事業会社経営陣に直接フィードバックし、問題の顕在化および対応の迅速化を図ります。この活動は、メディアスグループ全体におけるコンプライアンス体制の強化にもつながっています。

障害を持つ子供たちや地域の皆様に笑顔を

For Your Smile プロジェクト



協和医科器械は、未来の社会を担う子供たちが、医療に関心をもち医療職の仕事を経験できるイベント「メディメッセージ」を10年にわたり開催してきました。創立60年を迎える本年は、周年記念事業として、地域の皆様へ「笑顔」をお届けするべく、新たなCSRプロジェクト「For Your Smile プロジェクト」を発足。ハンディキャップを持つお子さまやその家族、地域の医療関係者の方々を劇団「かかし座」が提供するハートフルな影絵劇にご招待します。

【会社データ】

会社概要 (2017年6月30日現在)

設立	2009年7月
代表者	代表取締役社長 池谷 保彦
資本金	1,285,270,478円
従業員数	グループ 1,475名/単体 51名
決算期	6月末
本社所在地	東京都中央区京橋一丁目1番1号 八重洲ダイビル3階
電話	03-3242-3154 (代表)
事業内容	グループ会社の経営管理及びそれに付帯する業務

役員 (2017年9月27日現在)

【経営体制】	【監査役体制】
代表取締役社長 池谷 保彦	常勤監査役 小林 勝美
取締役 宮地 修平 (新任)	常勤監査役 山口 光夫 (新任)
取締役 芥川 浩之	監査役 (社外) 大澤 恒夫
取締役 栗原 勝	監査役 (社外) 武内 秀明
取締役 柴田 英治 (新任)	監査役 (社外) 寺井 宏隆
取締役 (社外) 遠山 峰輝	監査役 (社外) 桑原 和明
取締役 (社外) 信友 浩一	
取締役 (社外) 越後 純子	

【株主様へのお知らせ】

株式の状況 (2017年6月30日現在)

発行可能株式総数	19,800,000株
発行済株式の総数	6,484,247株 (自己株式265株除く)
株主数	2,458名

株主名	当社への出資比率	
	持株数 (株)	持株比率 (%)
株式会社エム・ケー	730,000	11.25
株式会社イケヤ	640,000	9.87
メディアスホールディングス従業員持株会	361,104	5.56
梅澤 悟	164,000	2.52
池谷 保彦	141,068	2.17
栗原医療従業員持株会	136,600	2.10
SKANDINAVISKA ENSKILDA BANKEN AB FOR HEALTHINVEST MICROCAP FUND	136,600	2.10
野田 了子	132,300	2.04
アルフレッサホールディングス株式会社	127,600	1.96
永田 幸夫	120,420	1.85

所有者別株式分布状況

個人・その他 4,097,630株 63.191%	その他の法人 1,777,363株 27.409%
外国人 383,490株 5.913%	金融機関 170,900株 2.635%
	金融商品取引業者 54,864株 0.846%
	自己株式 265株 0.004%

株主メモ

決算期	6月30日
定時株主総会	毎年9月中
基準日	定時株主総会: 6月30日/期末配当金: 6月30日/中間配当金: 12月31日 その他必要がある時は、公告の上設定します。
証券コード	3154
株主名簿管理人	☐ 名称: 日本証券代行株式会社 ☐ 所在地: 東京都中央区日本橋茅場町一丁目2番4号 ☐ 郵便物送付先: 〒168-8620 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 日本証券代行株式会社 代理人部 ☐ 電話照合先: 0120-707-843
公告の方法	電子公告とします。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。
上場証券取引所	東京証券取引所 市場第一部
1単元の株式数	100株

株式会社秋田医科器械店

〒010-1423
秋田県秋田市仁井田字中谷地130番地2
<http://www.akitaika.co.jp/>

株式会社ジオット

〒963-8568
福島県郡山市桑野五丁目14番6号
<http://www.xiot.co.jp/>

株式会社栗原医療器械店

〒373-8557
群馬県太田市清原町4番地の6
<http://www.kuribara.co.jp/>

株式会社メディカルバイオサイエンス

〒373-0012
群馬県太田市清原町1番地の10
<http://www.mbs-mk.co.jp/>

株式会社ネットワーク

〒151-0072
東京都渋谷区幡ヶ谷二丁目21番4号幡ヶ谷ファーストビル3階

株式会社ケアフォース

〒100-0013
東京都千代田区霞が関三丁目2番6号 東京倶楽部ビルディング6階
<http://www.careforce.jp/>

メディアスソリューション株式会社

〒101-0041
東京都千代田区神田須田町一丁目8番4号 陽友神田ビル6階
<http://healthcaresolution.jp/>

協和医科器械株式会社

〒422-8005
静岡県静岡市駿河区池田156番2
<http://www.kyowaika.co.jp/>

株式会社オズ

〒422-8034
静岡県静岡市駿河区高松二丁目23番39号
<http://oz-m.co.jp/>

ひとへ。いのちへ。信頼へ。



メディアスホールディングス株式会社

〒104-0031 東京都中央区京橋一丁目1番1号 八重洲ダイビル3階
TEL.03-3242-3154 FAX.03-3242-5016
<http://www.medius.co.jp/>

最新のIR情報はこちら

[メディアスホールディングス](#)

[検索](#)